資生堂グローバルイノベーションセンター S/PARK

SHISEIDO GLOBAL INNOVATION CENTER(S/PARK)

No. 05-058-2019作成
新築
研究所

発注者	資生堂
設計･監理	KAJIMA DESIGN
施工	鹿島建設

カテゴリー

A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO_2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

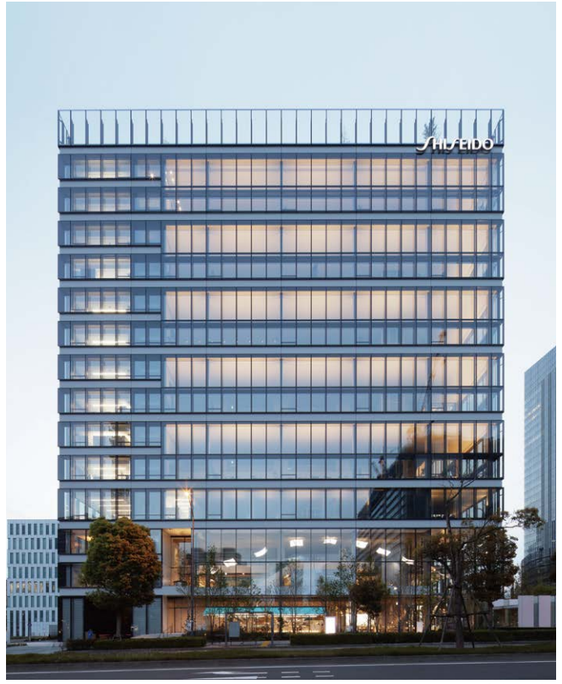
多様な場を内包する都市型オープンラボ

イノベーションを誘発する新しい研究のかたち

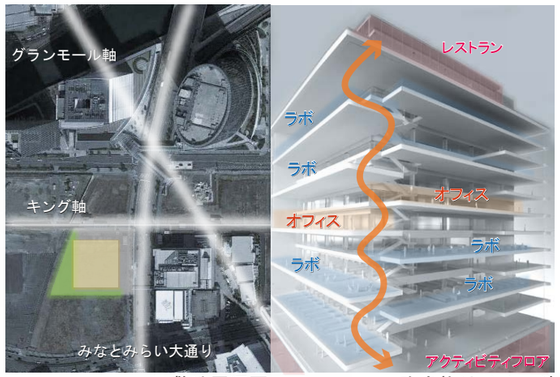
グローバルなビューティカンパニーの新たな研究開発拠点である。「都市型オープンラボ」「多様な人・知の融合」「グローバルイノベーションハブ」の3つをコンセプトに、新しい研究のかたちを追求したプロジェクト。横浜みなとみらいに建ち、東側はみなとみらい大通り、北側は歩行者ネットワーク（キング軸）に接している。コンセプトを具現化するために、建物の内外にわたり交流と創造を生み出す境界のない「透明性」を提案した。

研究フロアでは中央のラボに連続したコミュニケーションの場となる2層吹き抜けの空間を設けている。吹き抜けは階ごとに東面、北面と位置を交互に替え、オープンな階段によって垂直方向に11フロア連なり、ヒト・モノ・コトがアクティブに動き機能的にも体感的に「渦」を起こす空間としている。15階は屋外デッキテラスを併設した開放的な社員食堂とした。3・4階には、約500人収容の多目的セミナーホール、モニターテスト室、社外との共同研究を行うコラボレーションラボを配し、社内・社外との接点の利便性を高めている。1・2階は誰でも訪れることができるアクティビティフロアで、ビューティをテーマにしたコンテンツが吹き抜けを介して繋がる構成とし、お客さまと研究員がダイレクトに触れ合う場となっている。

この新しい研究開発拠点から生まれる研究成果が世界中で「ビューティ」のイノベーションにつながることを目指した。



東側外観



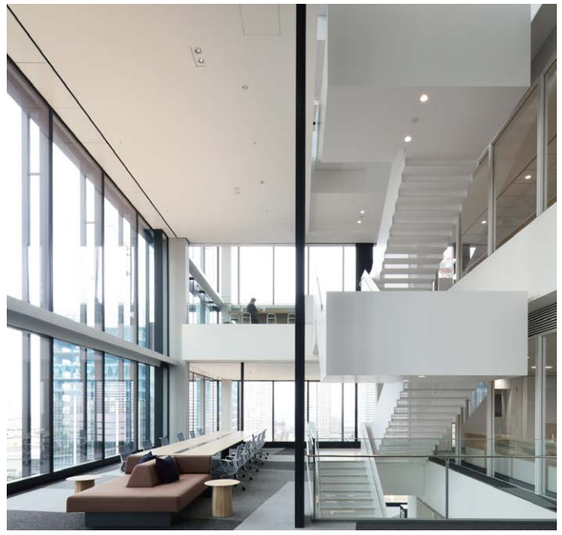
敷地周辺図　吹き抜けイメージ

断面コンセプト

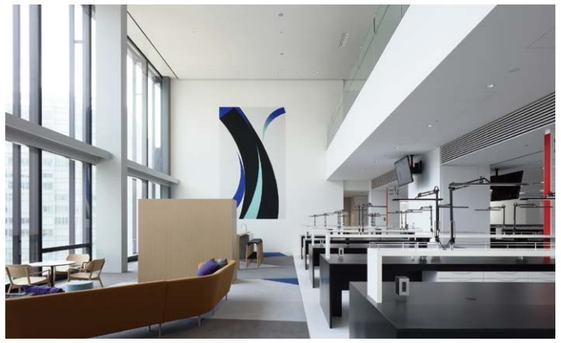
吹抜けでつながる空間を快適にする

新研究所が新たなライフスタイルにつなげる美の革新を実現し、イノベーティブな価値を創り続けるために、研究員と様々なワークショップでの議論を重ねた。歩くことを旅になぞらえ、研究員が行く先々で新しいインスピレーションを受ける様な「JourneyStyle」をコンセプトとしたワークプレイスを目指した。ラボエリアと一体となった開放的なイノベーションスペースは効率的に働くと同時に知の生産性を向上させ、11フロアがつながる吹き抜けは、研究員の新しい出会いを創出している。ランドスケープ全体は敷地の高低差を緩やかなアンジュレーションでつなぎ、誰でも自由にアクセスできる様配慮した。低層部のアクティビティフロアは、BeautyBar、Museumなどのコンテンツを通じて、研究員とまちとのコミュニケーションスペースとなり、新しい刺激とひらめきが感じられる場となっている。

研究員に様々な出会いを生み出す新しいワークスタイルへの試みが認められ、第32回日経ニューオフィス賞「経済産業大臣賞」を受賞した。

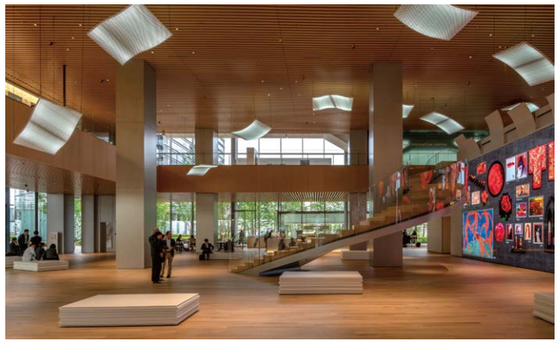


交互にスキップする吹き抜け



イノベーションスペース

レストラン



1階・2階のアクティビティフロア

緩やかにまちとつながるランドスケープ

設計担当者

統括：佐々木歩／建築：北典夫　城内淳　平郡志樹　北村知佳子　風間健　松尾和則　　構造：羽田尚広　山口圭介　舘野公一　山元雄亮　廣山剛士
設備：大崎敏雄　竹内和義　伊藤健　渡辺健太郎　竹島健一朗　永田遼平　宮崎達也　　ＦＰ：田中重良　宮本礼　　ラボコンサル：西田淳
実験設備関連FFE：イリア　荒木雅裕　村山美智子　中神貞史　　オフィスインテリア･FFE：イリア　岩本哲明　後紗矢佳　戸出彩子　：文祥堂　香月雄太　丸山彰　小山友輔
ランドスケープ：PLACEMEDIA　宮城俊作　吉田新　小林祐太　　ライティングデザイン：内原智史デザイン事務所　　内原智史　目黒朋美　加藤久樹　本多葵　柳田まりえ
１～2階アクティビティフロア　企画プロジュース：ORANGE AND PARTNERS　小山薫堂　萩尾友樹　　インテリア　基本計画･デザイン監修：nendo　担当/佐藤オオキ
インテリア　基本計画･デザイン：onndo　青野恵太 松井真吾　　コンテンツ専有部：乃村工藝社　林浩平　田村憲明　仁田真樹子　谷戸星香

建物データ

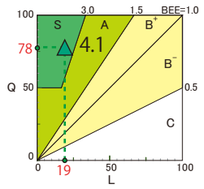
所在地	神奈川県横浜市
竣工年	2018　年
敷地面積	7,022 ㎡
延床面積	56,181 ㎡
構造	S造一部SRC造、RC造
階数	地下1階、地上16階

省エネルギー性能

BPI	0.72
BEI(通常の計算法)	0.74
$LCCO_2$削減	21 %

CASBEE評価

Sランク
BEE=4.1
2016年度版
第三者認証



主要な採用技術(CASBEE準拠)

Q2. 2.	耐用性・信頼性（制振装置、BCP対応）
Q2. 3.	対応性・更新性（400mmのOAフロア・4.5mの階高）
Q3. 2.	まちなみ・景観への配慮（街と連続するコモンスペース）
Q3. 3.	地域性・アメニティへの配慮（憩いのスペースの木陰・水盤）
LR1. 1.	建物外皮の熱負荷抑制（ダブルスキン、縦フィン）
LR1. 3.	設備システムの高効率化（4管式FCU個別空調、プラグイン分電盤）

※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します